

2023  
本日のテーマ「昨年読んで面白かった本」

実施日：2024年1月21日

1 「税金で買った本 1~6巻(続巻中)」  
ずいの/原作 系山岡/漫画 2021年~ 講談社 【マ/ケイ】  
図書館あるあるなネタに、図書館職員は、首がもげるくらいうなづま  
ながら読みました。破れた本にセテフは貼らないぞ!!

2 「君が夏を走らせる」  
瀬尾まいこ/著 2017年 新潮社 【Nセ】  
先輩の子どもを預かることになったヤンキー青年(16才)がまだ3人に  
しゃべりた赤ん坊(1才10ヶ月)におたおたしつ話しかけると3か  
あかして笑える。



3 「ドードー鳥と孤独鳥」  
川端裕人/著 2023年 国書刊行会 【N力】  
サイエンスミステリーです。調査過程がとてもリアルなので、本当のSF話?  
と思っております。気になる人は、同著者の「ドードーをめぐり堂々めぐり」もあわせて  
どうぞ。

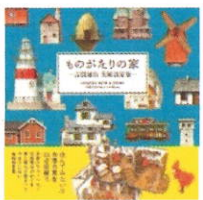
4 「一休さんの門 上・下」  
川口松太郎/著 1984年 読売新聞社 【N力】  
古い時代小説ですが、読みやすくわかりやすく書かれています。  
有名なとんち小僧や風狂僧として以外の、小僧み苦しむ  
修業僧一休のすがたも見られます。

5 「てん」  
ピーター・レイノルズ/作 谷川俊太郎/訳 2004年  
あすなろ書房 【Eテ】  
図画嫌いの女の子が、1人の先生によって解放され大変身と  
遂げる物語。美しいラストも必見!!



6 「ぼくのニセモノをつくるには」  
ヨシタケ シンスケ/作 2014年 ブロンズ新社 【EEヨ】  
ロボットに「ぼく」の身代わりをさせるために、「ぼく」のことをロボットに教  
いくところからよかた。

7 「ものがたりの家」  
吉田誠治/著 2020年 パインインターナショナル 【726.5】  
この家には、どんなものがたりがあるんだろう?と  
想像しながらながめるのが、楽しいイラスト集です。



8 「時計館の殺人」  
綾辻行人/著 1995年 講談社 【SNア】  
時計で埋めつくした館で殺された少女。緻密に計算されたトリックに  
驚かぬ読者はいないだろう。

9 「岩窟姫」  
近藤史恵/著 2015年 徳間書店 【Nコ】  
濡れ衣を着せられるアイドルが、自らの潔白を証明するために、巨大な闇に  
立ち向かう物語。現実の芸能界を彷彿とさせる感じなのかな?と思うと怖い。

10 「私立シードゥス学院 1~3巻」  
高里椎奈/著 2020~2021年 KADOKAWA 【YSNタ】  
全寮制私立男子校で起きる事件の数々...  
各章の扉表にある問いかけに頭を悩ませられます。完結済です。

11 「ノウイトオール あなただけが知っている」  
森バジル/著 2023年 文藝春秋 【YNモ】  
推理小説、科学小説、恋愛小説...タイプの違う5連作ですが、お話はつながって  
います。ラストは「えー?!」となります。

12 「最高のアフタヌーンティーの作り方」  
古内一絵/著 2021年 中央公論新社 【Nフ】  
ホテルのアフタヌーンティーのこと、和茶の歴史、ケーキのことなど知らない  
ことがあかします。「マカニマラニ」シリーズを読んだ人にはお楽しみも。



13 「レモンパイはメレンゲの彼方へ」  
もとしたいづみ/著 2016年 ホーム社 【914モ】  
おいしいおやちと、その思い出のエッセイが懐しくアツホリ。  
そのおやちの出でくる絵本も紹介されていて読みと2度たのしめる。

「犬小屋アットホーム」  
大山淳子/著 2022年 U-NEXT 【Nオ】  
→これは別の本を読んだからたいてい相に当たったので、この本を読んだら、  
紹介しなくては面白かったこと。文を飼っている人には  
ぜひおススメです。

「ルビンの壺が割れた」  
宿野かほる/著 2017年 新潮社 【Nヤ】  
160ページをあていう間に読んでしまったそうです。  
メッセの裏にかくされたものが恐ろしい!!



「いのち愛しむ、人生キッチン」  
松山タミ/著 2017年 文藝春秋 【596.0ヒ】  
家庭の料理ってやっぱりいいものだなと、思わされたそうです。

当日参加者の方に紹介していただきました